

薬開発「倫理観もって」

内部告発の北野さん 名市大で講演

発がん性が疑われる試験データを隠したまま新薬を販売しようとした製薬会社を内部告発した元研究者、北野静雄さん(65)の講演会が20日、名古屋市瑞穂区の名古屋市立大であった。新薬の販売中止につなげた経験から、研究者や薬剤師を目指す学生約250人に、薬を扱う責任や覚悟を語った。(佐藤裕介)



北野静雄さん(右)の講演を聴く薬学部
の学生ら＝名古屋市瑞穂区の名古屋市立大で

講演会は同大薬学部の授業の一環で開催した。北野さんの中止を要求するともにも、一九七四年、製薬企業に入社し、新薬の開発に従事した。仕事は「薬しくて仕方なかった」が八〇年、会社が発がん性の疑われる薬を発売しようとしていたことを知った。北野さんは最後に、学生に

たとえ販売を国に申請しても「専門家集団を抱える国が気付けてくれるかもしれない」と考えたが、会社に関連するデータを隠したことから翌年、国は新薬の販売を承認した。

「黙っていれば、薬害で人を殺すことになるかもしれない」と思った」という北野さん、社内では、社内労働組合をつくった」と話した。

薬学部三年、丸岡純也さん(三)は「薬の研究や開発に携